

創刊号

みなみくり

南栗遺跡 発掘たより

2022 年 5 月 23 日 発行



◆ 遺跡の発掘調査がはじまります

5 月 9 日 (月) から、中部縦貫自動車道松本波田道路の建設 ※にさきだって、南栗(みなみくり)遺跡の発掘調査をおこなっています。

場所は、栗林神社の南側を東西にはしる「県道新田松本線」に沿った田んぼの中です。調査は、11 月までの 7 か月間を予定しています。期間中、大型重機をはじめ、車両が出入りしますので、十分ご注意ください。また、調査区域内には危険な場所もあります。許可なく立ち入らないようにお願いします。発掘の見学を希望する方は、事前にご連絡ください。

皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。



南栗遺跡 発掘調査地点の位置

※ くわしくは、国土交通省長野国道事務所のホームページ (<https://www.ktr.mlit.go.jp/nagano>) から、道路事業>改築事業>高規格幹線道路 中部縦貫自動車道 松本波田道路をご覧ください

◆ 長野自動車道部分の調査成果

埋蔵文化財センターでは、1985～86（昭和 60～61）年度にかけて、長野自動車道部分の発掘調査をおこなっています。そのとき、7 世紀後半から 12 世紀までの竪穴建物跡 322 軒、掘立柱建物跡 104 棟のほか、お墓や水路などをみつけ、遺跡の南北境も把握しました。奈良井川以西は 7 世紀中頃までほとんど無住^{むじゅう}の地だったようですが、南栗の古代集落は、広大な土地を新たに開拓した人たちが暮らす村だったのです。村の中はいくつかのグループに分かれていて、それぞれが発展と衰退、分裂と合併を繰り返しながら、16 世紀まで続いたことも明らかになっています。



南栗遺跡の復元図（埋文センターほか 1991『いま信濃の歴史はよみがえる』より引用）

栗林神社の北東側で、軒を並べた大型の掘立柱建物跡（図上段の建物）や竪穴建物などで構成される宅地がみつかった。奈良井川以西の開発に関係する有力者が生活していたと想像している。

今回の調査では、古代集落が西側へどこまで続くのか、かれらの生活を支えた耕作地はどうなっていたのか、という課題を解明したいと考えています。また、開発者のお墓と想定されている安塚^{やすづか}古墳群^{こふんぐん}などとの関係を示す新たな発見もめざしています。ご期待ください。



1985 年冬の発掘作業 奥は栗林神社（撮影：河西克造）

長野県埋蔵文化財センター

担 当：河西克造/大竹憲昭/平林 彰

携 帯：070-4132-8528

メール：maibun@naganobunka.or.jp

H P：https://naganomaibun.or.jp